令和５年度　入学式式辞

例年にない早いスピードで松本平も満開の花の季節を迎え、待ちに待った喜びの季節がやってきました。政府の感染症に対する指針も変化を見せながら、着実に明るい方向に動き始めていることを実感する、そんな本日の佳き日、同窓会長　和合直子様始め、ご来賓の皆さまそして保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに松本蟻ケ崎高等学校令和５年度入学式を挙行できますことを大変喜ばしく、関係の皆様に厚く御礼申し上げます。

只今入学を許可いたしました 284 名の皆さん、ご入学おめでとうございます。教職員一同、皆さんの入学を心より歓迎いたします。保護者の皆様、本日はお子様のご入学、誠におめでとうございます。中学から高校へと、また一回り成長されたお子様の姿に感慨ひとしおのこととお喜び申し上げます。義務教育課程を修了し、自分の意志で初めて進むべき道を選択した皆さんですが、本校では高校３年間の時間を皆さんが有意義に過ごせますよう、自立の道のりをしっかり支援し教育活動に取り組んでまいりたいと考えておりますので保護者の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

松本蟻ケ崎高校は、明治 34 年、松本高等女学校として設立され、一昨年度創立１２０年を迎えた誇り高き伝統ある学校です。自主・自立・自存の精神を涵養し、より文化的で暮らしやすい社会の形成者として、希望と未来ある世界の構築に、実践的に参画できる個性豊かな人材の育成を教育方針とし、松本の地域に根付いた活気あふれる活動の歴史を刻んできた学校であります。校歌の一節では、「愛と心理と人のみち」「愛と平和と人のため」を貫くことを高らかに歌い、学校教育目標の柱としては、文化芸術活動ほか、さまざまな教育活動を通じ、豊かな感受性を育むことも目指しております。

社会情勢はここまで３年以上におよび、人間関係においてさまざまに分断を生んでしまいました。表情を読み取る大切さ、口元で描く喜怒哀楽、大切な言葉を伝えることすら億劫になってしまったマスク生活により、人間同士の心の交流が希薄になってしまいました。規制の緩和とともに、今年度はぜひ「人との出会い」の大切さを考え直したいと思うところです。

哲学者の森信三の有名な言葉に、「人間は一生のうち会うべき人には必ず逢える。しかも一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に」があります。人は人生の中で必要な人とは必ず、絶妙なタイミングで出会うことができるという言葉です。ただし、これに続く言葉に大切な意味があることをぜひ心に刻みたいと思うのです。「縁は求めざるには生ぜず。内に求める心なくんば、たとえその人の面前にありとも、ついに縁を生ずるに至らずと知るべし」というものです。すなわち、「自分の求める心がなければ、たとえ会うべき人が目の前に現れていても、その人との縁をつくることができない」ということです。私たちは、人生の中で多くの人々と出会い、その人々に支えられて生きていることを知ります。そして出会いの数々は「新しい自分の創造」であり、意味のない出会いなど１つもなかったことを後に振り返ります。新しい価値観との出会いによって、人生の選択の幅が広がることも心にとめ、すべての出会いをチャンスととらえ、これから始まる本校での学校生活を充実させてほしいと心から期待しています。

世界で起きている事実から目をそらさず、皆さんがこれから出会うであろうたくさんの人や経験から、自身の生きる方向を見出し、未来へと羽ばたける力を育める３年間でありますよう、本

日、そのスタート地点に立った新入生の皆さんが、力強く一歩を踏み出せることを切に願って、入学式の式辞といたします。

令和５年４月６日

長野県松本蟻ケ崎高等学校長　　鳥谷越　浩子